

第1学年 体育科 学習指導案

令和2年2月4日（火） 第5校時 体育館

1 単元名 「ジャングルたんけんにいこう!!」（跳び箱を使った運動遊び）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

○様々な動きに挑戦し、新しい動きができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童から見た特性

跳び箱を使った運動遊びの楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱を使った運動遊びを遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動きができたとき ・新しい動きに挑戦するとき ・できなかったことができるようになったとき ・友達や先生に褒められたとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけできないとき ・落ちたり転んだりして怪我をしたとき

3 児童の実態（※一部省略）

(1) 技能

【技能調査（令和2年1月9日実施）の結果】（調査人数●人）

①両足着地		②両手そろえた着手		③両足踏み切り	
できない	人	できない	人	できない	人
両足がそろろう	人	できる	人	できる	人
膝を軽く曲げている	人			力強くできない	人
できない児童の実態					
着地		着手		踏み切り	
・膝を伸ばしたまま、着地しようとしていた。		・両手をそろえたり、同時についたりすることができない。 ・跳び箱の上で手が滑ってしまう。		・両足同時に踏み切ることができない。	

技能調査の結果より、「膝を軽く曲げた両足着地」が●人中●人、「両手を揃えて、手を開いた着手」が●人中●人、「両足での踏み切り」が●人中●人と、跳び箱運動の学習につながる基本的な動きを習得できている児童は学級の半分以下であるということが分かる。

できない児童の多くは、腕支持で何かに跳び乗ったり、跳び越えたりする動きの経験をあまりしていないように感じた。本校に、遊具が少ないことや、近年、子どもの遊ぶ場所や時間が限られてきていることにより、「高いところから跳び下りる」「タイヤなどを跳び越える」といった経験を遊びの中であまり積んでいないのだと考える。そのため、体育の学習の中で、幅広い動きに触れさせる経験が必要である。

(2) 態度

【質問紙調査（令和元年12月16日実施）の結果】（調査人数●人）

調査項目	好き	まあまあ好き	嫌い
①外遊びは好きですか。	人	人	人
②体育の学習は好きですか。	人	人	人
体育の学習は好きですか。 （記述式） ○好きな理由 △否定的な理由	○鬼遊びが楽しい ○いろいろな運動があるから ○鉄棒が好きだから ○いろいろなことができるようになるから ○体を動かすことが好きだから ○リレーが楽しいから ○走ることが好きだから ○高いところが好きだから ○ボール投げが楽しい ○跳び跳ねることが好き ○楽しいから △自分だけできないから	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	

③跳び箱の学習でできるようになりたいことはありますか。（選択式、複数回答可）	
<ul style="list-style-type: none"> ・高く跳ぶことができるようになりたい ・遠くに跳ぶことができるようになりたい ・ピタッと止まることができるようになりたい ・跳び箱を跳び越したい ・いろいろな跳び方をできるようになりたい ・新しい跳び方をしたい ・友達と上手になりたい ・友達と競争したい 	人 人 人 人 人 人 人 人

④馬跳びをしたり、跳び箱で遊んだりすることは怖いですか。	怖くない	少し怖い	怖い
	人	人	人

⑤跳び箱の学習で心配なことはありますか。（記述式）	
<ul style="list-style-type: none"> ・怖い ・手を離さないか ・失敗しそう ・跳べるかどうか心配 ・跳ぶときに手をつくことが怖い ・跳び箱の上に乗ることができるか心配 ・難しそう ・転びそう 	人 人 人 人 人 人 人 人

<ul style="list-style-type: none"> ・マット以外のところにいってしまいそうで怖い ・怪我をしないか心配 	人 人
--	--------

本学級の児童は、「体育の学習は好きですか。」という質問に対して、●人全員が「好き」「まあまあ好き」と答えている。このことより、日々の体育の学習に意欲的に取り組んでいることが分かる。

体育の学習が好きな理由は、「いろいろな運動があるから」「いろいろなことができるようになるから」などが多く挙げられている。また、「跳び箱の学習でできるようになりたいことはありますか。」の質問に対して、どの選択項目も●人以上が選択している。このことから、児童はたくさんの動きに触れたり、たくさんの動きができるようになったりすることに楽しさを感じていることが分かる。

一方で、「馬跳びをしたり、跳び箱で遊んだりすることは怖いですか。」の質問に対して、●人中●人が「少し怖い」「怖い」と回答している。また、「学習で心配なこと」の質問に対する回答の多くが、「怖い」「怪我をしないか心配」という回答であり、小学校生活初めての跳び箱を使った学習に対して恐怖心を抱いている児童もいることが分かる。

(3) 思考・判断

本学級の児童は、仲間への励ましの声かけを意欲的に行うことのできる児童が多い。2学期に行った「折り返しリレー」「シュートゲーム」の授業では、「がんばれ」「ナイス」など、チームの仲間を一生懸命応援する姿が見られた。

一方で、仲間のよい動きを褒めるような具体的な言葉がけや技能向上につながる言葉がけは課題である。2学期に行った「シュートゲーム」の作戦タイムでは、「おとりになるよ」「同時に投げよう」などの技能向上や思考の深まりにつながるような具体的な声かけも出てくるようになってきている。しかし、そのような声かけができる児童は、数名であり、仲間の声かけの内容を理解できない児童も見られた。

4 教師の指導観

(1) 技能

本学級の児童の実態より、身につけさせたい動きは以下の2点である。

- ①跳び箱運動の「踏み切り」「着手」「着地」につながる基本的な動き
- ②跳ぶ（連続、方向、高さなど）の幅広い動き

この2つの動きを身につけさせるために、単元前半は、一つ一つの動きを丁寧に指導していき、単元の後半にサーキット運動を取り入れ、幅広い運動に触れさせていく。

単元の前半から多くの場があると運動遊びを楽しむことはできるが、「踏み切り」「着手」「着地」につながる基本的な動きを丁寧に教えることができない。今回が、初めての跳び箱を使った学習であり、必要最低限の基本的な動きを身につけさせなければ、怪我をする恐れもある。これらの理由から、単元の前半で「踏み切り」「着手」「着地」につながる基本的な動きを身につけられる遊びの場を設定する。そして、単元の後半にはサーキットによる運動遊びを行う。単元の前半で基本的な動きを身につけたことで、安全に活動でき、より発展した動きを子どもたちが見付けたり、経験したりすることができる。と考える。

(2) 態度

以下の2点を目的に、単元計画を工夫する。

- ①「やりたい」という学習に対する意欲を高めること
- ②用具の準備・片付け、学習のきまりを確実に身に付けること

【第1時：オリエンテーション】

「やりたい」という意欲を高めるために、単元の初めに行うオリエンテーションでは、単元の後半で行うジャングル探検の一部を試しに実施する時間を設定する。単元の初めに、跳び箱を使った学習は「楽しい」「もっとやりたい」「もっとできるようになりたい」という思いを抱かせ、これからの学習に対する意欲を高めていく。

【第2時～第4時：学習の流れをつかむ】

用具の準備・片付けや学習のきまりを確実に身につけるために、第2時～第4時は全グループ共通の場で行う。全グループの準備する場が同じであるため、児童も教師の指示を理解しやすくなり安全にすばやく準備を行うことができると考える。また、1時間の中で、学習の流れを統一する。学習の流れを《チャレンジする→レベルアップする→良い動き見付ける→もう一度やってみる》とし、児童が学び方を理解し思いきり運動を楽しむことができるようにする。

【第5時～第7時：これまでの学習を活かす】

単元の後半は、これまでの学習を活かしてサーキット形式で様々な動きに触れさせる。段階的に、用具の準備・片付けの仕方、学習の仕方を学習してきたことで、グループごとに異なった場での学習であっても、スムーズかつ安全に学習に取り組むことができると考える。

(3) 思考・判断

本単元では、全員が友達の良い動きを見付け具体的に褒められるようにすることを目指す。そのために掲示物を工夫する。各グループに一つずつ掲示板を用意し、ほめ言葉を足していく。必要な時に確認し、掲示板に載っている言葉を使って、友達にアドバイスをすることができるようにする。

5 研究課題との関わり

本校研究課題 生きる力を培う活力ある児童の育成

～主体的・対話的で深い学びを基盤とした授業改善～

本単元では、指導力向上のための授業評価アンケートに基づいた以下の視点に沿って展開する。

視点③「授業のなかで、自分の意見や考えが、みんなの学習に役立ったという思いをもたせる」
(アンケート③より)

視点④「授業のなかで、意見を話してよかったという思いをもたせる」(アンケート④より)

授業評価アンケートで数値が低かったのは、アンケート③(3.4pt)アンケート④(3.68pt)であった。理由の一つとして、仲間の動きについて考える経験が少ないことが考えられる。そこで、「ほめほめタイム」を設定し、仲間の動きについて考える経験を積ませていく。全員が友達の良い動きを見付け具体的に褒められるようにすることを目指し、以下の方法で

「ほめほめタイム」を行う。

- ①見る視点を絞り明確にする。
- ②掲示物にほめ言葉を掲示し、選んで伝えられるようにする。
- ③新しいほめ言葉を掲示物に追加していく。

表現する力のある児童は、自分や友達のほめ言葉が掲示物に追加されていくことで、意欲も高まり、様々なほめ言葉を伝えようとする。さらに、自分の考えたほめ言葉を友達が使うことで自分の意見や考えが役に立ったという思いをもつと考える。また、自分の思いをうまく表現することのできない児童には、掲示物を活用させ自信をもって発言することができ、役に立ったという思いをもたせることができると考える。

6 単元目標

- (1) 跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
【関心・意欲・態度】
- (2) 跳び箱を使った運動遊びを工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
【思考・判断】
- (3) 跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、馬跳びやタイヤ跳びをしたりするなどして遊ぶことができるようにする。
【技能】

7 単元及び学習活動に即した評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
単元の評価規準	跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組むとともに、順番や決まりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしていたりしている。	跳び箱を使った運動遊びの行い方を工夫している。	跳び箱を使った運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
学習活動に即した評価規準	①跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②運動の順番や決まりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	①跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 ②跳び箱を使った運動遊びの楽しくできる場や遊び方を選ぶことができる。 ③跳び箱を使った運動遊びのなかで、友達のよい動きを見付けている。	①片足で踏み切って跳び箱に乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。 ②助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることができる。 ③助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着い

			て両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。
--	--	--	----------------------------------

8 単元計画

(1) 器械領域の取り上げ方

	マット運動系	鉄棒運動系	跳び箱運動系
第1学年	マットを使った運動遊び 5時間	鉄棒を使った運動遊び 9時間	跳び箱を使った運動遊び 5時間
第2学年	マットを使った運動遊び 5時間	鉄棒を使った運動遊び 12時間	跳び箱を使った運動遊び 5時間
第3学年	マット運動 9時間	鉄棒運動 8時間	跳び箱運動 7時間
第4学年	マット運動 9時間	鉄棒運動 8時間	跳び箱運動 7時間
第5学年	マット運動 8時間	鉄棒運動 4時間	跳び箱運動 7時間
第6学年	マット運動 8時間	鉄棒運動 4時間	跳び箱運動 7時間

(2) 運動種目（跳び箱運動）の取り上げ方

学年	教材	目指す動き
第1学年	跳び箱を使った運動遊び	○跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。
第2学年	跳び箱を使った運動遊び	
第3学年	跳び箱運動	○基本的な支持跳び越し技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにする。 (切り返し系：開脚跳び、大きな開脚跳び 等)
第4学年	跳び箱運動	○基本的な支持跳び越し技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにする。 (回転系：台上前転、伸膝台上前転 等)
第5学年	跳び箱運動	○基本的な支持跳び越し技に取り組み、自己の能力に適した技が安定してできるようにするとともに、その発展技をできるようにする。 (切り返し系：安定した開脚跳び、大きな開脚跳び、かかえ込み跳び)
第6学年	跳び箱運動	○基本的な支持跳び越し技に取り組み、自己の能力に適した技が安定してできるようにするとともに、その発展技をできるようにする。 (回転系：安定した台上前転、伸膝台上前転、首はね跳び、頭はね跳び)

(3) 指導と評価の計画

時間	1	2	3	④	5	6	7	
ねらい	跳び箱を使った運動遊びの行い方を知ろう。	「いしにとびおりよう」を楽しく行ったり、上手に行ったりするやり方を見つけよう。	友達のよい動きをたくさん見付けよう。	ワニに食べられないように跳び乗ったり、跳び下りたりしよう。	ジャングル探検のやり方を知ろう。	友達の良い動きをたくさん見付けよう。	これまで学んだことを活かしてジャングル探検でレベルアップしよう。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方 グループ編成 場の設定の仕方 感覚つくりの行い方 試しの運動の行い方 	<ul style="list-style-type: none"> 【いしにとびおりよう】のやり方 ほめほめタイムの行い方 跳び下り方 (フワッと跳ぶ、膝を曲げた両足着地) 	<ul style="list-style-type: none"> 【まるたをわたろう】のやり方 着手の仕方 (手はパー、腕支持での体重移動) 	<ul style="list-style-type: none"> 【わにからにげよう】のやり方 踏み切りの仕方 (両足での力強い踏み切り) 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場の行い方 (場の設定の仕方、運動遊びの内容、サーキットの回り方) 			
学習過程	<p>1 集合、挨拶、健康観察 2 準備運動、補強運動</p> <p>3 本時のねらいを確認する</p> <p>4 学習の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ編成 1時間の流れ <p>5 びよんびよんタイム (感覚つくり運動) の行い方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> くまあるき あざらし うさぎとび かえるのあしうち うまとび <p>6 用具の運び方を確認し準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具の運び方 演技の待ち方 準備、片付けの仕方 <p>7 ジャングル探検のやり方を確認し、試しにやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> びよんびよんコース まるたをわたろうコース わにからにげようコース <p>8 用具の片付け</p> <p>9 学習の振り返り、本時のまとめをする。</p> <p>10 整理運動、挨拶をする。</p>							
評価計画	②③④ ①	②	③	③	①	①②	① ①②③	
方法	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	
編	4.5.6	7.8.9	8.9.10	6.7	6	6	6	

8 本時の学習と指導（4/7）

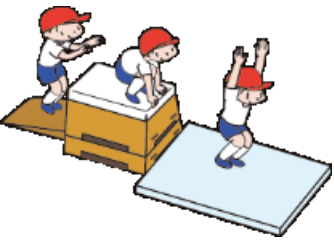
(1) ねらい

○助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。

(2) 準備

・跳び箱 ・マット ・踏み切り版 ・CD アンプ ・掲示板 ・学習カード

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準） ◇小中一貫の視点
導入 10分	<p>1 集合、整列、挨拶をする。</p> <p>2 準備運動をする。 (投力向上運動を含む)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【投力向上運動】 シャドーピッチング (セット、指差し、足上げ、ビュンッ！)</p> </div> <p>3 用具や場の準備をする。</p> <p>4 ピョンピョンタイムをする。(感覚づくりの運動)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・くまあるき ・あざらし ・うさぎとび ・かえるの足打ち ・馬跳び </div>	<p>○列を整え、健康状態、服装（帽子のゴム、シャツ、上履き）を事前に確認する。</p> <p>○元気よく挨拶をし、学習に対する意欲を高める。</p> <p>○準備運動を一つ一つ正確に丁寧に行うことができるよう声をかけながら補助をする。</p> <p>○仲間と協力し、「安全」「すばやく」「協力」を意識して行わせる。</p> <p>○音楽を使い、楽しく行うことができるようにする。</p> <p>○それぞれの動きのポイントを押さえて行うようにする。</p>
展開 25分	<p>5 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>ワニにたべられないように とびのったり とびおりたりしよう。</p> </div> <p>6 チャレンジタイムをする。 【ワニからにげよう】 (支持での跳び乗り・跳び下り)</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>7 レベルアップタイムをする。</p>	<p>○掲示物や障害物を活用し、児童が楽しく行えるようにする。</p> <p>○恐怖心を取り除くことができるよう、はじめは連結の場で行う。</p> <p>○楽しく行う時間であっても、「ルールを守ること」「安全に行うこと」を必ず確認し、確実に守るようさせる。</p> <p>○低い跳び箱や柔らかい跳び箱を用意しておき、恐怖心をもっている児童は、易しい場と自分の場を行ったり来たりできるようにする。</p> <p>○一斉指導で良い動きを広め、児童一人一人が目指す姿をもてるよにする。</p> <p>○少ない回数で跳び越えたり、遠くに跳び下りたりさせ、児童が意欲をもっておこなうことができるようにする。</p> <p>○ほめほめタイムに向けて、同じグループの友達の良い動きを見付けておくよう助言する。</p>

	<p>8 ほめほめタイムをする。</p>	<p>◇友達の良い動きを見付け、褒める活動を多く経験させることで、中学年以降に仲間の良い動きを見付けたり、課題解決をしたりすることにつながられるようにする。</p> <p>◆助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。 【技能】</p> <p>△努力を要すると判断される状況 (C) の児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの仲間の良い動きを真似するよう助言する。 ・易しい場を準備し、段階を踏んで運動できるようにする。 <p>◎十分満足できると判断される状況 (A) の児童の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力強い踏み切りで、腰を高く上げて跳び箱に跳び乗ることができる。 ・跳び箱の遠くに着手することができる。 <p>○全員が友達の良い動きを伝えられるよう、これまでの学習で使った言葉を掲示し、選択して声かけをできるようにする。</p> <p>○新しく出てきたほめ言葉を、教師がほめほめカードに記入し、掲示物に貼っていく。</p> <p>○もう一度レベルアップタイムを行い、友達の良い動きを真似したり、ほめほめタイムで出てきた言葉で仲間にアドバイスをしたりできるようにする。</p>
<p>整理 10分</p>	<p>9 用具の片付け</p> <p>10 本時のまとめをする。</p> <p>11 整理運動、挨拶をする。</p>	<p>○仲間と協力し、「安全」「すばやく」「協力」を意識して行わせる。</p> <p>○ねらいに沿った振り返りを書くことができるように声かけをする。</p> <p>○次回の学習の予告をし、これまでの学習が次時からの学習につながることを伝え、意欲を高められるようにする。</p> <p>○使った部位を中心に整理運動をし、体をほぐさせる。</p> <p>○気持ちのよい挨拶で学習を終わらせる。</p>

9 場の設定

